

眼科疾患は全身症状の部分現象ともいえるべきもので、眼もまたたばこによる身体的影響を直接的、間接的に受けています。糖尿病網膜症や加齢性黄斑変性などあらゆる眼科疾患は多かれ少なかれその影響を受けていると思われます。

## 1. 白内障

白内障とはカメラでいえばレンズに相当する水晶体が徐々に濁ってくる病気です。症状は物がかすんで見えたり、二重に見えたり、視力が低下します。80歳以上ではほぼ100%に生じます。たばこを吸う人は吸わない人に比べて白内障になる危険性が高いと言われています。

原因ははっきりしていませんが、たばこから発生する窒素酸化物が、水晶体のタンパク質、 $\alpha$ -クリスタリンに悪影響を及ぼしていると考えられています。最近では手術でほとんどが治癒しますが、白内障を進行させないという意味でたばこはやめたほうがよいでしょう。

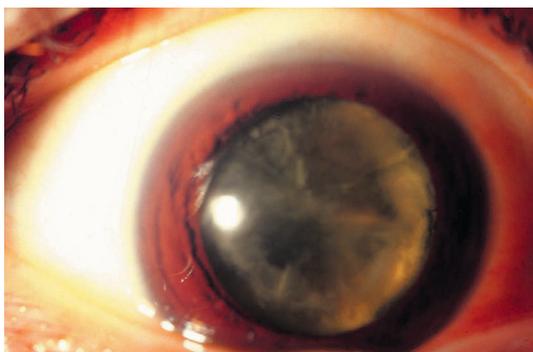


写真1

写真1は67歳の男性にみられた左眼の白内障の症例です。

## 2. 加齢性黄斑変性

男性に多く、たばこによりその発症や進行に対する危険度が高くなるといわれています。たばこを吸う人は吸わない人に比べて約2.5倍発症のリスクが高いといわれています。

原因は加齢性変化によって、血管の豊富な脈絡膜から新しい血管が発生し、眼底の中心部の黄斑部という眼底の中でも急所とでもいうところに出血、滲出斑、浅い網膜剥離など様々な変化を生じてきます。初期から視力が落ち、物がゆがんで見えたりします。進行してくると高度の視力低下を来し、失明状態となります。



写真2

そのメカニズムとしてたばこによる酸化ストレスや末梢の血流障害が指摘されおられます。

写真2は57歳位の男性にみられた左眼の加齢性黄斑変性の眼底です。

### 3. 糖尿病網膜症

糖尿病により血糖が高くなると網膜の毛細血管が障害され、出血や白斑などを引き起こしてきます。初期ではほとんど自覚症状はありませんが、徐々に視力は低下していき、放置すると失明してしまいます。我が国では失明原因のトップで、年間3000人以上の方が失明しています。

たばこは細い血管を収縮する作用がありますので、網膜の血流が悪くなり、網膜に酸素や栄養が行かなくなります。そしてさらに網膜症を悪くすることになります。

腎症や神経症など糖尿病による他の全身疾患のことも考えると、やはりたばこはやめたほうがよいでしょう。

写真3は52歳位の男性にみられた右眼の糖尿病網膜症の眼底です。



写真3

### 4. 緑内障

緑内障とは眼圧が上がったり、眼の血流が悪くなり、視神経が障害されて、視野が欠損してくる病気です。初期では自覚症状はないことが多く、徐々に視野が狭くなり、放置すると失明してしまいます。40歳以上では30人に1人に生じると言われています。たばこは緑内障を進行させる可能性があります。

原因は、たばこによる血管収縮により眼の壁の静脈圧を上昇させ、眼の中の流れが悪くなり、眼圧が上昇するためと言われています。またたばこによって血管が収縮し、眼の血流が悪くなるためとも言われています。

血管系に対する全身的影響などを考慮しても、たばこはやめたほうがよいでしょう。

写真4は60歳位の女性にみられた左眼の緑内障の視神経乳頭です。



写真4

野間英孝・塚本秀利